

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873900435		
法人名	社会福祉法人 廣山会		
事業所名	認知症グループホーム プルミエールひたち野		
所在地	茨城県かすみがうら市土田字山田330-9.10		
自己評価作成日	2021年3月31日	評価結果市町村受理日	2021年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;IjyosyoCd=0873900435-00&amp;ServiceCd=320&amp;IjyosyoSearch">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;IjyosyoCd=0873900435-00&amp;ServiceCd=320&amp;IjyosyoSearch</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年5月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホームは自然豊かで林や果物畑に囲まれた高台にあり、入居者は季節の移り変わりが感じられる環境にある。同敷地内には特養・デイサービスが併設され、希望に応じたサービスを提供することが出来ます。また、1年を通して様々な行事を開催し、入居者の皆様やご家族、地域の皆様にも楽しんで頂いております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四大行事(納涼祭・敬老会・大餅つき大会・ひな祭り)</li> <li>・行事(お花見・運動会・クリスマス会・忘年会・安全祈願祭・豆まき)</li> <li>・目玉レク(スイカ割り・ふかし芋)・誕生会(誕生者総会、誕生会メニュー、デザートバイキング)</li> </ul> <p>○新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、密になる行事等の開催を中止しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>年間行事の運動会は参加者数に制限を設けた。毎月、何かしらのイベントが開催できるよう取り組んでいる。運動会での玉入れは、コロナを吹き飛ばす勢いの盛り上がりだったとのこと。正月には神社の宮司が来訪し、健康と安全を祈願してもらった。餅つき大会には立浪部屋の力士に来てもらうなど、ユニークな活動をしている。職員は利用者を第一に考え、コロナ禍で様々な配慮が必要な中で、工夫を凝らしたケアを行っている。職員の明るさと、笑顔、チームワークの良さがこのホームのアピール点と話していた。排泄と入浴のケアは、個々の状態だけではなく、思いも汲んだケアの方法がとられており、グループホームならではの取り組みだと感じた。職員全員の意見を聞き、運営に反映させ、職員の気づきを具体化するという、職員を育てる取り組みがされているホームである。<b>*新型コロナウイルス感染対策としてオンラインで調査を実施。ホーム内の視察及び書類閲覧はモニター越しに行い、リアルタイムの映像で確認。</b></p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、経営理念・心の目標・基本方針を全職員へ配布し共有している。年3回、理念・基本方針についての理解度を確認し思いを深めている。いつでも確認できるように施設内に掲示している。	法人全体の理念の他、目的と目標は各事業所毎にある。年3回、理念・基本方針についての理解度を職員一人一人に確認している。年度初めには理事長からの話があり、心の目標は、元気・本気・やる気となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、さまざまな行事が中止となっている。実施された地域の草刈りは参加している。	コロナ禍で外部との交流が難しい中、地域の草取りに職員が参加し、地元の人との交流を継続している。理容室と柔道整復師訪問マッサージの出入りは許可している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、講習会等が中止となったため行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、書面での運営推進委員会開催となっている。委員からの質問には回答している。	書面報告で開催としている。稼働率や事故の報告、本館・2号館の資料を発送し、委員からは電話で意見をもらう。面会やコロナワクチンについての質問が多い。ワクチン接種は6月初めからの予定となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所に出向き、利用者・事業所の状況を伝えたり、市からの相談にはその都度対応し、協力体制を築いている。	長年、市の委託事業で、認知症サポーター養成講座や介護相談を行い、市役所とは日常的に連絡を取り合っている。市役所までは車で3分と近く、介護相談で呼ばれることもある。情報提供も頻繁に頂く。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人には身体拘束適正化委員会が設置されており、新人研修や現任研修で身体拘束をしないケアを学んでいる。毎月のリスクマネジメント会議ではヒヤリハット・事故報告の事例を話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	委員会は月1回、リスクマネジメント会議と一緒に開催する。各部署毎の苦情やヒヤリハット、事故について報告し、対策や対応の検討をする。気づき力向上にもなり、ヒヤリハットの多さが事故防止に繋がっている。系列事業所のヒヤリハットが自身のホームの事故防止にも繋がるよう、ヒヤリハットの報告は一つにまとめられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人には虐待防止委員会設置されており、新人研修や現任研修で虐待防止について学んでいる。虐待防止委員会が中心となり、定期的に個別のミーティング等を行い、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修に参加できる環境を整え、学ぶ機会を設けている。また、実際に成年後見制度を利用されている方もいる。また、個々の必要性を考え、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にはご自宅に訪問、施設を見学して頂き、不安や疑問に思う事を少しでも減らし、契約時にはわかりやすく説明し、納得した上で入居して頂けるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見・要望・苦情等は、管理者、ケアマネ、職員、第三者委員に伝え、改善策を検討し、日々のケア、運営に反映させている。	家族からの意見は、利用者の状況を連絡した際にもらう。コロナ禍で、リモート面会や窓越しの面会だが、姿を見るだけでも安心するという意見をもらっている。リモート面会は家族に書面で通知し、予約制としている。生活の様子を知らせるために、お便りに写真を載せて送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、会議を行い、スタッフの意見や提案を聞く機会を設けている。会議に参加できない職員も書面を事前に配布して、意見をくみ上げている。会議等で出た意見を反映させている。	会議の前に全職員の意見を書いて提出してもらい、それをまとめて議題にする。それぞれの職員の視点がお互い参考になる。職員は、法人内の委員会に所属し、やりがいのある職場環境づくりに努めている。オンラインでの研修参加、情報交換をしながらサービス向上に務めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間については勤務表や残業命令簿を必ず確認して、勤務に偏りがいないか確認している。職員は法人内の適した委員会に所属し、やりがいのある職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職責や経験等を考慮して、施設内外の研修に参加して学べる機会を設けている。ヒヤリハット報告書などを活用して危機察知能力の向上にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、同業者との交流や訪問等は殆ど無いが、オンラインでの研修会への参加や所属する会(員)との情報交換にてサービスの向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前には必ず事前調査にて本人の生活環境や生活歴を把握し、その上で不安に思っていることや要望などを良く聴き、ご本人が安心して生活を始められるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時点で、困っていること、不安なこと、要望等を良く聴き、ご家族に安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査時に現状を把握し、必要としているサービスを見極めるようにしている。見極めできない場合は、他事業所や各専門職に相談し、適切なサービスが受けられるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしで役割を持って生活して頂けるように、ご本人のできることを常に考えた支援を行っている。下膳等をして頂いた際は、感謝の言葉を伝え、良い関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、リモート面会ができる体制としている。ご家族には、受診等も可能であれば一緒に付き添って頂いたり、体調の変化時には、連絡を取り合い身体状況の共有にも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親族や友人との手紙やハガキを送ってくださる方もいる。リモート面会ができる体制とし、支援に努めている。	コロナ禍でも家族との関係が途切れないよう、リモート面会を取り入れた。SNSアプリでお孫さんとも面会でき、利用者の表情も良くなった。毎月の請求書にお便りを同封し、ホームでの様子をお知らせしている。コロナ禍においても、冠婚葬祭へは付き添いなど検討し、誠実に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の皆様にくつろいで頂けるように一人ひとりの性格などを申し送りや毎月の会議で情報を共有し、座席等の配慮を行っている。利用者間でトラブルとなりそうな時は、職員が入り、関係性が崩れないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時には、今後についての話し合いを持ち、退居されても、いつでも相談に対応できることを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前調査や契約の時に暮らし方の希望や意向の把握に努めている。把握が困難な場合には、日々の生活の中での表情や言動から検討している。	事前調査で本人・家族の意向を聞き、日常生活の中で自由に本人の思いが伝えられるような環境作りを心がけている。受診の帰りに自宅に寄る事もある。広告で箱を作ったり、編み物、塗り絵などの趣味も継続している。自宅と同じように畑作業をしたいという人への対応を思案中。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス提供前には必ず事前に調査を行い、利用の経緯について本人・家族・担当ケアマネジャー等から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身の状態に合わせて過ごして頂いている。バイタル測定や日常の動作、食事や排泄状況からも現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との普段の会話や面会時等で聴いた家族からの意見、また、毎月の会議で職員から得た意見をもとに介護計画を作成し、家族に同意を得ている。	利用し始めは馴染むことから始まり、6ヶ月毎に計画を更新。日々の生活の様子は介護記録に入力し、特別な事柄は申し送りノートを活用し、情報を共有している。会議で書面に記された意見も参考にしてモニタリングできる。会議で出された全職員の意見もまとめ、計画作成に反映する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子は介護記録に入力し、職員はいつでも確認することができる。特別な事項は申し送り時に口頭で伝え、申し送りノートも活用し、情報を共有し、迅速に個々のサービスの提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍においても、冠婚葬祭への付き添い等、急な事柄にも検討し誠実に対応している。また、その時々本人や家族の状況を踏まえ、多角的に検討し柔軟なサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において、地域の方の慰問やイベント等が中止となり、施設内で咲く季節の花を見に行くなど、散歩を中心に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医に受診している。協力病院から月2回の往診を受け、感染リスクが極力少ない対応としている。病状によって適切な医療が受けられる病院に受診している。受診結果は各職員が確認できる体制となっている。	協力病院の往診で健康管理を行っている。発熱、転倒などの緊急時は直接病院に電話連絡をして指示をもらう。往診は月2回。24時間対応ではないが、夜間でも協力病院に電話相談ができ、安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の施設から、内線一本で看護師に相談できる体制となっている。毎月の医務会議には各事業所からの代表が集まり、利用者の情報の共有と感染症対策等の話し合いを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはお互いにサマリーを活用し、情報の共有に努めている。また、入院中にADLの低下により排泄や食事状況が変わった場合でも病院から連絡、相談できる関係となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・終末期の介護に関する指針を説明し、同意を得ている。本人の状態に応じて、主治医からの説明をもとに他病院、医療施設、併設の特養等への移動などを話し合ったケースもある。また、喀痰吸引の研修にも参加し家族の要望に応えられるように努めている。	医療連携や看取りに関する指針ある。ホームでの看取りは経験ない。重度化すると特養に移動し、特養での看取りになっている。職員は、急変時に備えて、救急救命士による心肺蘇生法や止血法、誤嚥時の対応などの、普通救命講習を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人、現任に関係なく救急救命士の指導による心肺蘇生法や止血法、誤嚥時の対応について普通救命講習を受講している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策委員会を中心に火災・地震・夜間の火災・炊き出し訓練を実施している。発電機や無線機・災害備蓄品を常備している。また、災害時には、地域の区長や消防団からも協力が得られるようになっている。	避難訓練は火災発生想定で、夜間想定も行う。高台にあり、水害の心配はないが、職員の通勤路に被害の可能性があり、迂回路も把握している。区長さんは災害時は駆けつけてくれることになっている。炊き出し訓練を行っている様子が写真付きの記録で残されている。インカム使用により、1ヶ所に集まらなくても指示が伝わり、情報共有が正確にできる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナー委員会や虐待防止委員会を中心に不適切な言葉かけや態度をしないということ等を研修で学び、気をつけて対応するように努めている。職員はインカムを使用し、大きな声を出さず、プライバシーに配慮した対応をしている。	強い口調や名前の呼び方に注意している。ゆっくりと伝わる様に話せているか、イライラしていないか、優しい口調になっているか、職員へのアンケートを行う。言葉、態度、身だしなみなどについての接遇マナーは年2回実施している。インカムの使用で、失禁などの状況が他の利用者に聞こえることなく職員全員に伝わり、適切な対応ができる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人が自由に思いを伝えられる環境を目指している。カラオケでは好きな曲を歌って頂き、デザートバイキングの時には好きな物を食べて頂いている。言葉では意思表示できない方には、普段の様子から本人の思いや希望を読み取り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、その日の体調を確認しながら起床・就寝、排泄、昼寝等、過ごしやすい環境で暮らして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はなるべく本人が好む物を着用している。散髪も定期的で、本人や家族と相談しながらその人らしい髪型となっている。特に男性は髭を剃るなど、日々身だしなみに注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の座席は、気の合う方と楽しんで頂けるように配慮している。食事前には必ず口腔体操を実施している。下膳やテーブル拭きも限られた方ですがお願いしている。また、毎月の誕生日会にはデザートバイキングも行っている。	副食は特養の厨房で作り、御飯と味噌汁はホームで作る。誕生日会では、ケーキや手作りのデザートバイキングで8種類の中から選べる。元パティシエの本格的なデザートである。毎月季節のものを取り入れる。栄養会議にて、栄養士・医師から摂食できない人の為に補助食の指示もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分量をチェックし、状態や体重の増減があった場合には、担当医師に相談し指示を仰いでいる。管理栄養士とも連携が取れる体制になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には口腔体操を行い、口腔内機能の維持向上を目指している。毎食後、利用者の状態に応じ、歯磨き・うがい等の口腔ケアを行っている。義歯は每晚預かり義歯洗浄剤を使用して衛生管理を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や介護記録などを活用し、毎月の会議で個々の排泄パターンについて話し合っている。職員全員が排泄パターンを把握し、トイレ誘導することで排泄の失敗やおむつの使用を減らしている。	排泄形態を、対応の仕方、使用物品、介助法などを個別に記載し、一覧表にすることでケアの統一化ができる工夫がされている。起床時、朝食後等場面場面で対応の仕方が具体的に示されている。変わりがあれば申し送りでも共有。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品を召し上がって頂いたり、水分を多く摂って頂けるよう声掛けを行っている。また、毎月の歌に合わせてたりハビリ体操を毎日実施し、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	テーブルごとの誘導や本人の希望により女性職員が対応するなどの配慮をしている。入浴を拒否される方には、職員や時間を変えての声掛け、誘導をしている。週2回の入浴を実施し、介護度が重い方でも2人で対応するなど、個々の状態にあった支援を心掛けている。	入浴形態に関する一覧表もあり。個々のこだわりや希望を細かく記載。女性スタッフ限定の方、長湯の方、浴槽で体を洗う人は最後など、具体的に記載されている。重度化した方は二人体制で介助。湯は流たまま。脱衣所には立位を取れない人のためにベッドをおいてある。ゆず湯、しょうぶ湯、温泉気分になりたいときは入浴剤で楽しむ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間は希望に沿って対応している。日中、好きな時間に居室やソファで休息できる。就寝前には気の合った人が集まり、テレビを見ながら談笑されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のケースファイルに処方箋を綴じ込み、職員はいつでも確認出来ることになっている。主治医から指示があった場合にも申し送り時に伝え周知している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が自ら進んでテーブル拭きや下膳などの役割を持って過ごされている。気分転換にカラオケを楽しまれたり、好きなお菓子やジュースを召し上がって楽しんでいる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通常であれば、外出委員会が企画し、外出行事等で戸外に出かけていますが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、外出支援が行えていない状況である。	例年、ひたち海浜公園にネモフィラを見に行くなどの外出を楽しんでいるが、現在はコロナ禍で外出行事の全てを自粛。敷地内にお花見公園があり、例年、地域の老人クラブの方を招待しての交流ができていたが、こちらも見合わせている。近場での散歩や、戸外での外気浴など、ストレスがたまらぬよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望により、お金を所持している方もいる。現在、使用できる場所は施設内の自動販売機のみとなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使用し、連絡が取りあえるように対応している。また、手紙が届けば本人に手渡し、読めない方には代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々居心地よく生活して頂けるよう、座席は気の合う方と座れるように配慮している。季節感を味わって頂きたく、毎月テーブルごとに季節の花を飾り、時期に合わせ、ひな壇や鯉のぼり等を飾っている。	リビングには3ユニットの利用者が、テーブルごとにグループ分けされて座っている。一つのフロアをカーテンで3つに仕切れるようになっている。季節柄、鯉のぼりが飾られていた。誕生日会の様子の写真と紹介、壁飾り、行事ごとの写真が沢山掲示されている。誕生日カードに職員からのメッセージが書かれていた。立浪部屋からもらった相撲の番付表があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを各所に置き、好きな時に誰でも自由に利用できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で使い慣れた家具や衣類は持ち込み自由であることを本人、家族に伝え、住み慣れない場所でも本人が不安にならないような空間づくりを心掛けている。	写真、折り紙の花が飾られ、テレビ、誕生日のメッセージカード(色紙)、喜寿の表彰状等が置かれていた。ぬいぐるみを好む人もいる。塗り絵、間違い探し、カレンダーなどの自分の作品を飾る人もいる。ノロ対策から布団はレンタルで、夏のタオルケットは各自持参してもらう。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっていて、各所に手すりが付いている。本人の有する能力、嗜好に合わせて、過ごされる居室も考えている。		

(別紙4(2))

事業所名 : 認知症グループホーム プルミエールひたち野

## 目標達成計画

作成年月日 : 2021年3月8月11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	9	・農作業を希望されている入居者に対して、希望に沿った対応ができていない。	・畑を作成するのは困難な為、プランターなどを利用して農作物を栽培する。その手伝いや、アドバイスなどを入居者からもらう。	・プランターと季節の野菜の苗を購入して、野菜の栽培を行う。定期的に入居者と発育状況を確認して、収穫も一緒に行う。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。